

批評

●五十三次スケッチ 中澤弘光畫

神田小川町 大野書店

初集水彩木版風景畫五枚  
上製六拾錢 並製四拾錢

此集は曾て東海道徒歩旅行を試みられし中澤氏の筆にして、畫面も大に、色調も單純なれば、臨本とするに、又スケッチの趣味を知らんとする人には好參考書たるべし。唯惜む、蠶紙あまりに粗末にして、且原畫の色に近く、繪を害する事少なからぬ。

●睡蓮

相馬御風作

神田三崎町 東京純文社

豎長形百二十頁 定價三拾五錢

表紙、口繪、上裝共に和田英作氏の筆になれり。表紙の意匠は氏の作中優秀なるものなるべし。口繪は木版刷の極めて古雅なるもの。詩には花守、藻の花、夢つづめ、亂れ香、草笛、天上の春の題の下に短歌數百首あり。われ等は詩を好みどそは只好むといふのみにて、評し且論ずべき力なければ、こゝには單に其美はしき書なる旨を記して世に紹介し置く。

□ □ □ □

□本會は追て會員組織にして、會とみづゑ愛讀者諸君との關係を深くし、益々水彩畫の發達に力を盡したいと思ひます。

□世間には、雜誌の代幾月分拂込めば誰て

も會員になれて格別會員の特權もなく、又義務もないといふ、極めて無造作のもありますが、本會はそのやうな無意味なものではなく、會員には充分利益を與へ得るやうな方法をとりたたいと思ひます。

□自己の作品の批評若くは添削を受け得る。會の出版物を低廉に求め得る事。大家の肉筆畫を借覽し得ると。時々開催の寫生會へ出席し得ると。其他諸君の御要望を承つた上、取捨して定める積りです。

□義務の規定は考がありませんが、約束を固くするため多少の入會金を申受けるか、或は自作の水彩畫を出して頂いて試験の上諸否を極めるやうにしたいと思ひます。

□本誌初號よりの直接讀者、又は引續き何冊以上の愛讀者、一時に何冊以上の前金拂込者なども其資格の一に致したく思ひます。是は雜誌みづゑの基礎を作る上から必要であると考へます。

□以上の件につき御意見のある方は、御遠慮なく御通知を願ひます。來替あたりから實行したく思ひますから其つもりで可成早く願ひます。

□みづゑ發送の際挿入する繪ハガキ挟みは遠地では途中で損傷するやうにきゝました。それには雜誌が表紙が厚い故、其儘發送し、その口繪の損じの憂がありませんし、且諸君も最早御飽きになつたと思ひますから本號限り廢すことに致しました。

□その代り、直接の讀者へは別項廣告欄にある通り、繪ハガキ挟の價丈け値下げを致しました。

□みづゑ第四は石版印刷面倒にて出版が遅れ、直接讀者へ送るべき上製糸級の分全部間に合はず、夫がため並製も混りました。並製を御受取になつた方へは御詫申上ます。

□本號から水彩スケッチの石版刷を一枚加へました。初めは簡單なものより追々複雑なものに進んでゆく考へです。

□この口繪には、諸君が筆者の後に立つてゐて、親しく見てゐられるのと同様な結果を與へたく思ひまして、説明をつけました。猶ほ不明の點があつたら御質問をなさいまし。

□本號には、猶一枚の寫真版口繪を入れる筈でしたが、製版がよく出来ぬため見合せました。是からは、寫真版の口繪は鉛筆か一色畫ばかりを一枚丈けにして、三四號目に彩色版を一枚づゑ増して見やうかとも思つてゐます。

□本號から讀者の領分といふ欄を設けました。水彩畫に關したものは何でも御投書なさい。

□本會の秋季寫生會第一會として同志三人十月中旬上州赤城山へ參りました。多少目新しい寫生畫も出来ました。當中では少なからぬ滑稽も演じました。結果は十二月のみづゑにて御紹介申上ます。猶同號には彩色石版畫三枚を挿入します。